

中長期目標 (学校ビジョン)	(1) 心身ともに健康な自立した社会人にするために、体育・徳育を重視し基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 問題解決過程を重視した授業を構築し、学習意欲を高める。 (3) 試行実践の場を活用することにより論理的思考力・問題解決能力・コミュニケーション力を高める。 (4) 社会貢献の観点に立った進路指導を展開する。	今年度の重点目標	(1) 良き生活習慣の確立 (2) 学ぶ意味を理解させる授業の構築 (授業改革の深化) (3) 人間力を高める生徒指導
-------------------	---	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	具体的項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	経過・達成状況	評価	改善方策
良き生活習慣の確立	① 爽やかな挨拶が出来る	○教務室などの出入りや廊下での挨拶は概ねできている。 ○添削など指導を願う際、相手(教員)の都合などに留意しながら願いたい出ることができる生徒が増えた。 ▲敬語で話せない生徒が少数いる。 ▲挨拶の声が小さかったり、気持ちの入ったものになっていない生徒がある。 ▲挨拶をしない生徒へ職員が注意をすることが少ない。	①校内・校外を問わず、自然に自分から心のこもった挨拶ができる。また、相手の状況に応じた適切なコミュニケーションがとれる。	①-1 挨拶することの意味をSHR、授業、集会、部活動等の機会をとおして適宜生徒に伝え、学校全体での意識をあげる。 ①-2 教員から率先して挨拶を行い、お互いの挨拶を習慣化するとともに、挨拶できていない生徒に対して、その場での徹底を全職員が意識して行う。 ①-3 生徒会執行部を中心にして、生徒が互いに挨拶を交わす機会を増やす。	①-1△積極的に挨拶できる生徒は年度当初より増えてきているが、相手の状況に合わせて自主的に挨拶ができていないといえない。 ①-2▲職員室や進路指導室への入退室の際挨拶はしているが、声が小さかったり、用件がはっきり伝えられない。現在指導中である。 ①-2▲教職員にも主体的に挨拶をする人から生徒からの挨拶に応えない人がある。 ①-3○登校時の挨拶運動に生徒会執行部が参加した。	C	①-2教職員がSHRなどで率先して挨拶をするなど挨拶を励行し指導を継続する。 ①-3定期的に登校時、生徒会が中心となり挨拶運動をする。
	② 身の回りの環境を整える(服装、清掃)	【服装】 ○夏服の下シャツや冬服の下からセーター等を出す生徒は少なく、ほとんどの生徒が守れた。 ○ボランティアにおいてふさわしい身だしなみやマナー・礼儀が守れた。 ▲一部の生徒でスカート丈について指導が必要であった。	【服装】 ①ほとんどの生徒が正しい制服の着方をしていいる。 ・夏服:シャツだしをしない ・冬服:セーター出しをしない ・男子:ズボンを下げない ・女子:スカートの丈の長さを守る	【服装】 ①継続的に全体指導を行うとともに、服装が乱れている生徒には、その都度正すよう指摘する。指導にのりにくい生徒については、多くの教職員が関わり指導を徹底するとともに、保護者の協力をおおぎ、改善させる。	①○服装についてはほとんど問題ないが、一部の生徒で常習化している。 ②-1▲SHR終了後の清掃への移動が緩慢。 ②-2○全体としてはきちんと清掃できる生徒は増えているが、清掃の時間だけ掃除をしていると言う感が否めない。 ②-2△指示がなくてもきちんと清掃できる生徒と指示待ちの生徒が固定化されている。 ②-3○ゴミ箱が一つになってからゴミの持ち帰りが増えたが、ゴミの分別方式が昨年と変わったため、可燃ゴミが昨年より増えた。 ②-5▲教室の整理整頓ができていない。 ②-6△掃除道具が足りない、または掃除割り当て人数が多すぎる掃除場所がある。	B	①一部生徒に対する継続した指導が必要。 ②-8生徒会・環境保健委員の活用を具体的に。
	③ 時間を意識し、今、何をすべきかを考えて行動する	【時間】 ○遅刻について随時指導を行った結果、全体的に遅刻者は少なかったが、遅刻者目標達成には至らなかった。(一人年平均1.3回) ○全校集会の集合時間は守れた。 ▲ステージによっては、特定の生徒の遅刻が目立ったり、年度目標に至らないステージがあった。 ▲4点固定を実践している生徒に限られている。 ▲授業始業の意識が低く、始まっても授業の用意ができていない生徒がいる。 ▲部活動引退後、平日においては受験生として安定した学習習慣を構築できるものも増えたが、休日においては、家庭において望ましい学習習慣が構築できない生徒が多数あった。(S3)	【時間】 ①遅刻をしないなど、時間を守る大切さを認識し、規則正しい生活を送ることができる。 【遅刻防止の目標】 回数 一人年平均1回以下 ②4点固定を日常的に実施するなど、生活リズムが整い、学習習慣が確立している。	【時間】 ①-1 遅刻数など、生徒状況を常に把握し、保護者との連携を密にしてタイムラグのない指導を心がける。 ①-2 遅刻を繰り返す生徒には、その都度声をかけし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。 ②-1 4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導等を通して指導する。 ②-2 授業の準備をしてから始業を待つことを徹底し、時間を守る意識を高める。 ②-3 携帯電話等の使い方が適切なものとなるよう、保護者との連携を密にする。	①-1○遅刻欠席は多くない。 S1:27回、S2:64回、S3:59回 (4月7日から8月31日までの遅刻延数) ①-2○集会の集合状況は時を経る毎によくになっている。 ②-1△生活の軌跡を生かした個別の面談指導が不十分 ②-1○S3生は当初、時間の使い方に工夫が見られない生徒が多かったが、夏休み頃から改善が見られる。 ②-2▲朝読書の日の1限に遅れる生徒が目立つ。 ②-2○チャイムが鳴った時点で授業準備ができていた生徒が増えてきた。 ②-3○携帯端末、4点固定については保護者説明会を通して周知徹底を続けている。 ③-1△全体的な提出率は比較的良好だが、一部の生徒で期限が守れない状況が続いている。	C	①チャイムスタート・チャイムエンドの徹底。 ①教員が早く教室に行き、授業準備を促す。 ①-2遅刻の多い生徒には、ステージが中心となりその都度指導を継続する。 ②-1 10月に生活の軌跡を利用した面談の実施。 ②-2朝読書の日程を次年度に向け検討する必要がある。 ③ミッタシステムの活用をさらに充実させる。
① 思考力、判断力、表現力を高める	○生徒が主体的に授業に向かう姿勢は全学年で向上している。 ○生徒に発言を促したり、論述する授業を心がけており、一定の成果は上がってきている。 ▲課題・小テストの準備と部活動に時間を費やし、プラスαの活動ができていない。 ▲選択授業が多く、自由に発言する雰囲気を作るのが難しい。	①生徒が目標を持って主体的に授業に取り組む、論理的に自分の考えを表現することができる。 ②学びの過程を大切にしたい学びあいが、どの授業においても日常的に行われている。	①授業で意識的に表現活動を取り入れたり、記述・論述する機会を増やし論理的に思考する習慣をつけさせる。 ②教科会の充実、校内研究授業の継続及び充実、先進校の視察をとおして授業研究を充実させる。	①○学習習慣が身につく生徒が多く、授業に臨む態度も比較的良好だが、プロジェクターの更新もあり、更なる授業の工夫が可能。 ①△基礎学力・知識の構築に手一杯で、プラスαがほとんどできていない。 ①△授業改革に対する転入職員への説明が不十分。 ②△アクティブラーニングの手法は少しずつ定着しつつあるが、教科によってはのばらつきが大きい。 ②▲校内研究授業が未実施。	C	①自習を少なくする工夫をさらに推し進める。 ①機器の校内での研修を行い、実践例を示す。 ②アクティブラーニングについての周知(確認)をする。 ②11月に研究授業を行う予定である。	

評価項目	具体的項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学ぶ意味を理解させる授業の構築(授業改革の深化)	②学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める	○S3の家庭学習時間は7月までは少ないが、その後は学習会や大山合宿を通し、学習が軌道に乗ってきている生徒も多数みられ、2学期からは、家庭学習時間は平均5時間以上確保した。 S3:総体以降5時間以上の生徒55.7% ○鳥取大学のオープンキャンパスで大学での学びをイメージできた。 ○S3大山勉強合宿に95(149名中)名が参加した。 ○国公立一般試験出願数延131名(前年88名)で、最後まで受験に向かう生徒が多くなった。 ○テスト前に勉強用プリントによる工夫で得点率の上がった科目がある。 ▲S1・2の家庭学習時間が少ない。 S1:2時間以上の生徒24.3% S2:2時間以上の生徒20.5% ▲生活の軌跡を利用して、自分の生活を見直そうとする生徒に限られている。 ▲一部で将来の目標が見出せず、学習に結びついていない。 ▲課題の提出状況は概ね良好だが、学力向上に結びついていない。	①学習目標を明確に持ち、積極的に学習している。 ②身近な先輩の体験談を通して学ぶことの必要性を理解し、主体的に学んでいる。 ③授業を中心に予習、復習を行い、一定の家庭学習時間が確保できている。 【家庭学習時間目標】 S1・S2:2時間以上の生徒が50%以上 S3:5時間以上の生徒が50%以上 ④課題の意味を理解し、課題提出状況が95%以上となっている。	①年度初めにその教科を学ぶ意味や目的を明示するとともに、各授業においては単元観と単元目標を提示する。 ②上級生やOB、OGによる講話の機会をとおして、学ぶことの意義を考えさせるとともに、自主性が高まるよう刺激する。 ③生活の軌跡を活用して、面談をとおして家庭での学習習慣の指導を行う。 ④課題提出は生徒個々の理解度の把握であることを教員が共通認識し、「出した出さない」の評価にとどめない。	①○折に触れ、授業開始時に実施している。 ①△計画的な学習や勉強の仕方が分かっていない生徒がある。 ②○OB・OGによる保護者説明会での発表やチャレンジグループ活動における助言の機会は好評であった。 ②△上級生の活用はまだ不十分。 ③▲S3・S2の家庭学習時間が少ない。 ・2時間以上の家庭学習者の割合 S1:67%、S2:13%、 ・5時間以上の家庭学習者の割合 S3:10% ③○S3は大山合宿に参加した一部の生徒で学習習慣が身につけてきた。 ④△課題の意義は授業中繰り返し説いているが、作業になっている生徒が多い。	C	①面談を通して、勉強の仕方を再度説明したり、計画例を提示して、生徒が計画的・主体的に学習できるようにする。 ②木曜の6、7限を利用し、計画的に講話等を今後も運営していく。 ③不得意科目の克服を意識付けさせる指導を継続して行う。
人間力を高める生徒指導	①キャリア教育の充実 ・チャレンジグループ活動を基軸とした生き方探求	【チャレンジグループ活動】 ○チャレンジグループ活動での社会人の講演により進路意識を持たせることができた。 ○チャレンジグループ活動の個人研究の進捗状況をこまめに確認し、研究に対するアドバイスを行うことで活動の充実と生徒の意欲を喚起した。 ○進路講演会を通して生徒や保護者に最新情報を提供した。 ▲社会的知識が不足、社会に対する関心が希薄な生徒が多い。 ▲教員にチャレンジグループ活動に取り組むための余裕がない。 【パイオニアホーム】 ▲パイオニアホーム企画の計画が遅れたため、一部夏休みを活用できなかった。 【図書館活用】 ○フィールドワーク関西の事前活動として図書館を活用して情報収集し見学の視点を明確にできた。 ○県立図書館・博物館の見学を実施し、進路や文化活動の視野を広げた。 【その他】 ○生徒会行事の企画・運営は、生徒が主体的にできるようになってきたが、学習などその他の取り組みまで及んでいない。	【チャレンジグループ活動】 ①自分自身が社会の一員であるという自覚を持っている。 ②将来を意識し、上級学校における学びに向けて、積極的に考え行動している。 ③チャレンジグループ活動をとおして、自らの進路を明確にし、将来、社会に貢献できる力を身につけている。 【パイオニアホーム】 ④学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、自主的・主体的に学校行事に取り組んでいる。 【図書館活用】 ⑤氾濫する情報から必要なものを選択し、教育活動に役立てている。 【その他】 ⑥生徒会活動(西高祭・球技会等)をとおして、生徒が何事にも主体的にかつ協力して取り組んでいる。	【チャレンジグループ活動】 ①各種ボランティア活動への参加を奨励する。ボランティア専用の掲示スペースを設け、計画的に参加を促す。 ②オープンキャンパスの意義を説明し、主体的に参加する姿勢を育てる。 ③-1 卒業生や有識者を招聘して、インプットを重視した講演会を行い、視野を広げたり考えを深めていく。 ③-2 チャレンジグループ活動の主幹となる分掌を設け、基本的な活動計画を策定し、活動実績と継続性を高める。 【パイオニアホーム】 ④パイオニアホーム育成のための企画を早期に計画し実行することで、パイオニアホーム生としての自覚を高めさせる。 【図書館活用】 ⑤-1 新聞や図書館の蔵書の有効活用をはかる。 ⑤-2 授業での図書館活用や図書館企画を推進する。 【その他】 ⑥-1 生徒自身の手で計画的、主体的に行事の企画・運営を行える環境を整える。 ⑥-2 行事の実施要項を生徒自身が作成し、継続性を高めさせる。	①○ボランティア黒板が設置されたので、各種ボランティアへの呼びかけや活動報告に活用し、更に参加を呼びかけた。 ①○ボランティアや交流を通して自分の存在価値を見いだしている生徒は多い。 ①△ボランティアの参加率は悪くはないが、年間を通じた参加ができていたとはいえない。 ②○鳥大オープンキャンパス参加者は意識が高く、事前事後の提出物も良好であった。また、参加者も増加した。 ②○S1鳥大は10月、鳥大は11月実施予定。 ③-1○チャレンジは生徒が主体となって取り組んでおり内容も向上している。 ③-2○キャリア内S主任が中心となって運営できている。 ③-2△チャレンジグループの体系化ができておらず、その場しのぎの感が否めない。 ③-2▲チャレンジグループ活動の資料のファイルができていない。 ④△パイオニアホーム企画について、多少早く動くことができたが、生徒個人の意識に差がある。 ⑤○チャレンジグループ活動での図書館利用は多い。 ⑤△S3の図書貸し出しは多いが、S2の図書貸し出しが少ない。 ⑥○生徒会行事を中心に生徒主体の活動がシステムティックにできはじめた。 ⑥○西高祭・生徒会活動の取組については計画性・主体性・実行力は昨年度以上に実施できたが、学習意欲や学力には反映されていない。	B	①年間のボランティア予定を提示し、生徒にボランティア参加計画を作成させる。 ①ボランティア参加状況のとりまとめがあると、要録記載時など利用しやすい。 ②S1鳥大、鳥大のOCも意識付けをしっかりとりのぞむ。 ③-1生徒に対して、将来をプレゼンする面談を増やし、社会との接点を意識させる。 ③-1年度末に引き継ぎ資料の作成、下話が必要。 ③-23年を通したチャレンジの流れをまとめる。 ④パイオニアホームの取組み・動きを全職員に周知する。 ⑤調べ学習など図書館における授業での活用状況を発信する。 ⑤チャレンジでの活用をさらに促し、それをきっかけに普段の利用につなげる。 ⑥球技会などこれからの行事でも継続した取り組みを続ける。
	②地域のことを知り、将来、地域貢献活動のできる人材を育成する	①社会や地域との関係を持つ機会が少なく、社会や地域の中で、自分の存在価値を見いだしたり、地域の理解が不十分。高校時代から社会や地域と関わる体験をとおして、社会性やマナー、人との関わり方を身につけていくことが必要。 ②多くの生徒は上級学校に進学し、卒業後に地元を中心に社会人として活躍しており、高校時代から地元の良さ、課題を発見し、将来、地域振興を行っていくような人材育成をしていくことが必要。	①社会や地域と関わることで、社会や地域の中における自分の存在価値を見いだしている。 ②地域で行われている様々な行事や取組について理解することで、地域の良さや課題を発見し、将来、地域で生きる自覚を高め、将来の生き方を考えている。 ③高校という学校の枠を超えて、地域の方と触れ合う機会を持つことで、将来、社会人として生きていく上で必要な社会性やマナーを身につけている。	①-1 県外を含めた社会や地域の情報を効率よく収集し、活用させる。 ・朝日新聞記事データベースの活用。 ・県内や地域に関する図書、全国各地の町おこし資料等の活用。 ①-2 地域の小学生、中学生を対象とした学習指導をボランティアで実施。 ②-1 地域振興に関する講演会をとおして、地域の実態や課題を理解する。 ・チャレンジグループ活動の取組として実施 ②-2 県内の遺跡や伝統建造物、市役所等を訪問し、地域の歴史や伝統品を調査探求することで、地域の良さを再発見する。 ・チャレンジグループ活動の取組として実施 ③-1 図書委員による県立図書館、県立博物館視察訪問。 ・地域の文化、情報発信の拠点に学ぶ ③-2 高校生さわやかマナーアップ運動期間を中心に、生徒・職員による地域の方と合同で挨拶運動の実施。	①-1○チャレンジグループ活動の教育分野や狛犬の個人研究で活用した例があった。 ①-1△新聞を始め情報の収集活用は不十分。 ①-2○夏休みに近隣の小中学生を対象に学習ボランティアを実施した。 ②-1○S1チャレンジグループ活動で大学や地元企業、自治体の講演会を実施した。 ②-2○チャレンジグループ活動の個人研究では、地元でのフィールドワークを積極的に行う生徒が増えてきた。 ②-2○S2政経Gで実施した。 ③-1△県立図書館や博物館の視察を実施したが、そのフィードバックができていない。 ③-2○生徒会執行部の生徒が挨拶運動に参加した。	B	①新聞等メディアの利用を促進する。 ②チャレンジグループ活動の計画時に地元活用を意識し、早い段階から、積極的に地域に出かけさせ見聞を広める。 ③生徒にポスター展示などで報告をさせる。

○:改善が見られ、良好な状況

▲:今後、改善が必要な現状

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%]

[80%]

[60%]

[40%]

[30%]